

1. 和文原稿

1.1 構成

1.1.1 表紙

本誌ホームページからダウンロードし、必要事項を記入した表紙をつける。

1.1.2 本文第1ページ

本文原稿の第1ページには、題目、著者名、所属機関(研究実施機関)、責任著者(Corresponding Author)の連絡先(〒、住所及びメールアドレス)を日本語、英語で記載する。所属機関が複数ある場合、及び研究実施機関と現所属機関が異なる場合は、著者の右肩に番号(片括弧付きの上付き文字)を付し、対応する所属機関に番号を記す。責任著者の右肩には番号に続いて*マークを付す。原稿内容が本会の学会等で発表済の場合は、その旨を脚注に記す。

[例]

腐食防食の基礎研究

腐食太郎^{1)*}, 腐食次郎^{1,3)}, 防食学¹⁾, 防食花子²⁾

¹⁾ 腐食防食大学

²⁾ 腐食防食研究センター

³⁾ 現: 腐食防食株式会社

Basic Research of Corrosion Engineering

Taro Fusyoku^{1)*}, Jiro Fusyoku^{1,3)}, Manabu Bosityoku

¹⁾ and Hanako Bosityoku²⁾

¹⁾ Corrosion University

²⁾ Research Center for Corrosion

³⁾ Currently: Corrosion Engineering Co., Ltd.

*責任著者(Corresponding Author) 〒113-0033 東京都文京区本郷2-13-10 (2-13-10 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033, Japan)

Email: ysm.hng-113-0033@jcorr.or.jp

2) 脚注

第62回材料と環境討論会(福岡, 2015年)で発表

1.1.3 本文

研究論文, 総合論文, 速報論文, 講演大会論文及び技術資料, 解説は, 次の構成を基本とする。要旨(英文, 日本語), キーワード(英文, 日本語), 緒言, 理論, 実験, 結果, 考察, 結論, 謝辞, 参考文献。ただし, 必

要に応じて構成を変えてもよい。その他の種類の原稿の書式に関しては, 特に規程はない。

1.2 体裁

1.2.1 用紙

原稿フォーマットは, A4版縦置き横書きとし, 上下に3cm, 左に2cm, 右に6cmの余白を残し, 25字×32行構成とする。

1.2.2 文章

文章は, 新かなづかい, 常用漢字を用い, 簡単明瞭に書く。なお, 原則として学術用語は文部省監修「学術用語集」を規準とする。和文の句読点は「,」(全角カンマ)及び「.」(全角ピリオド)とする。

1.2.3 見出し

本文中の章・節・項の区分は次の表記に従う。

章 1. 2. (大見出し)

節 1.1 2.1 (中見出し)

項 1.1.1 2.1.1 (小見出し)

本文中の大見出しは, その上を1行あける。小見出し以下の区分はアルファベットによる。

1.2.4 字体

数字, ローマ字, ギリシャ文字, 上付き文字, 下付き文字, イタリック体及びゴシック体等は, 印刷時の誤りを防止するために明瞭に表示(印刷)する。

1.2.5 数字

数字は, 原則としてアラビア数字を使用する。ただし, 一つ, 二つ, 三つといった, 「つ」を含む数詞や, 一部分, 三原則, 一例等一つの単語として完成している場合は漢数字を使っても良い。

1.2.6 分数

文章中の分数は, $a/(b+c)$, $x/(ab)$ のように記す。ただし, 数式等はこの限りではない。指数は, $5 \cdot 10^{-2}$ としないで, 5×10^{-2} と記す。

1.2.7 単位

数の単位は, 原則として国際単位系(SI)を用いる。

1.2.8 物理量と変数

物理量, 変数は, 原則としてイタリックを用いる。その際, 物理量の状態を表す下付き文字は立体(ローマン)を用いる。例えば, 「溶液の温度 T_s ...」ここで, R は気体定数である...」

1.2.9 人名

本文中の人名は, 姓のみ原語で記入する。

1.2.10 ページ番号

「Zairyo-to-Kankyo (材料と環境)」原稿の書き方

原稿にはページ番号を付記する。

2. 英文原稿

2.1 構成

2.1.1 表紙

本誌ホームページからダウンロードし、必要事項を記入した表紙をつける。

2.1.2 本文第1ページ

和文原稿に準じて本文原稿の第1ページを作成する(1.1.2参照)。

2.1.3 本文

書き方は和文原稿に準ずる(1.1.3参照)。

2.1.4 体裁

原稿フォーマットは、A4版縦置きとし、左右に2cm、上下3cm程度の余白を残して行数30行とする。句読点は「,」(半角カンマ)及び「.」(半角ピリオド)とする。書き方は和文原稿に準ずる(1.2参照)。

3. 英文及び和文要旨

要旨は、目的、方法及び結果について、英文は200語以内、和文は200字以内に要約する。

4. キーワード

原稿の内容を適切に表現する英文及びこれに対応する和文のキーワードを5~10語程度付記する。固有名詞を除き、すべて小文字とする。

4. 図(写真を含む)及び表

4.1 図の描き方

- (1) 図及び表は、そのまま製版・印刷されるので、書き誤りのないよう十分に注意すること。
- (2) 図及び表の原稿は原則として刷り上り半ページ幅(80mm以内)に縮尺されて印刷されるため、図の大きさ、線の太さを考慮して描く。図の線は、枠線を含め、0.5ポイント以上とする。
- (3) 図及び表の原図は図表ごと別々にA4版1枚に描く。原図は横幅120mm以上にして作図すること。
- (4) 研究論文、総合論文、速報論文、講演大会論文及び技術資料における図・表の表題、図表中の標記は英文とする。
- (5) 座標軸のラベルや数値、説明文字は、印刷時に8ポイントとなるように設定する。各文字は同じポイント数にするのが望ましい。

- (6) グラフの軸値の桁数が多くなる場合、例えば腐食速度が $0.01\text{gm}^{-2}\text{h}^{-1}$ のとき、目盛りは0, 1, 2...とのみ記し、軸のラベルをCorrosion rate/ $\times 10^{-2}\text{gm}^{-2}\text{h}^{-1}$ のように表記する。
- (7) 図表の原稿は周囲に十分な余白を残し、1枚ごとに用紙の一隅に著者名及び論文タイトルの出だし5文字程度を記入する。
- (8) 電子顕微鏡写真等は、倍率表示を避け、写真の隅にスケールを入れる。
- (9) 同一内容の図の重複、図と表との重複は極力避ける。
- (10) 電子ファイルの場合、図表は十分な解像度(600dpi以上)の一般的なフォーマット(png, tiff, jpg, pdf)を使用する。
- (11) 図表をカラー刷上がりとする場合、カラープリンタの出力紙を原図とする場合は鮮明なものに限る。
- (12) 刷上がり時にカラー化する図表のみを、原稿提出時にカラーとして提出する。モノクロ印刷を希望する場合は必ずモノクロ化した図表を提出する。

4.2 キャプション

研究論文、総合論文、速報論文、講演大会論文及び技術資料における図及び表のキャプションは英文とする。キャプションは、各図表の原稿シートに記入するとともに、別紙にまとめて表記する。

4.3 ナバリング及び本文中での引用

図及び表のナンバリング、並びに本文中での引用はFig.1, Fig.2...又はTable 1, Table 2...のように記す。

4.4 本文中における図表の挿入位置指定

本文中における図表の挿入位置の指定は、本文原稿の右側空欄に明記する。

5. 参考文献

5.1 参考文献リスト

参考文献リストは、文献の種類に応じ、以下の体裁及び例に準じて記載する。英文表記を原則とし、成書や便覧等英語名がない場合はローマ字で記載する。リストには通しで文献番号をつける。

【腐食防食学会発刊の文献】

「Zairyo-to-Kankyo (材料と環境)」原稿の書き方

[例]

- 1) H. Okada, *Zairyo-to-Kankyo*, **40**, p.1 (1991).
- 2) K. Nakagawa, T. Isozaki and S. Kihara, *Boshoku-Gijutsu* (presently *Zairyo-to-Kankyo*), **36**, p.376 (1987).
- 3) H. Kawakita and K. Kobayashi, Proc. JSCE Materials and Environments 1999, JSCE, pp.97-98 (1999).
- 4) J. Nakata, T. Nakatani and T. Shibata, Proc. 45th Jpn. Conf. Materials and Environments, JSCE, pp.427-430 (1999).
- 5) M. Yoshikawa, Y. Miyata and S. Asakura, Proc. Fushoku-Boshoku '92, JSCE, p.27 (1992).
- 6) Y. Sakai, Proc. 39th Jpn. Corrosion Conf., JSCE, pp.91-92 (1992).
- 7) T. Shinohara, Proc. 121st Symposium, JSCE, p.24 (2000).

【学術誌論文 (腐食防食学会以外)】

体裁: 著者名 (姓名・共著者はすべて), 誌名 (略記), 巻 [号] ページ番号 (発刊年).

※学術誌の略記は, ケミカルアブストラクト (Chemical Abstracts) 及び本会ホームページ掲載の「雑誌名略記表」を参照

[例]

- 1) D. M. Bastidas, V. M. La Iglesia, E. Cano, S. Fajardo and J. M. Bastidas, *J. Electrochem. Soc.*, **155** [12] p.104 (2008).
- 2) N. D. Green and B. E. Wilde, *Corrosion*, **26**, pp.553-554 (1970).
- 3) H. Ogawa, I. Itoh, M. Nakada, Y. Hosoi and H. Okada, *Tetsu-to-Hagane*, **23**, p.605 (1977).

【書籍】

体裁: 著者名 (姓名・共著者はすべて), 書籍名, 出版社名, ページ番号 (発刊年).

[例]

- 1) G. Okamoto and K. Inoue, *Fushoku to Boshoku 3rd Ed.*, Dainippon-Tosho, p.90 (1987).

【国際会議の予稿論文】

体裁: 著者名 (姓名・共著者はすべて), 会議名 (前にProc.を挿入), 開催都市, 主催団体略称, ページ番号 (開催年).

[例]

- 1) A. Ikeda, M. Ueda and S. Mukai, Proc. CO₂ Corrosion, Houston, NACE, p.3 (1984).
- 2) A. Dugstud, M. Halseid, B. Morland and A. O. Sivertsen, Proc. CORROSION/2013, Houston, NACE, Paper No.2785 (2013).

【インターネット上の資料】

体裁: 資料名, URL (アングルブランケット (<>) で囲む) 最終アクセス日 ([Accessed]で囲む).

※最終アクセス日は, 原稿提出以前のアクセス日を記載

[例]

- 1) The Global Status of CCS, <<http://hub.globalccsinstitute.com/sites/default/files/publications/19843/global-status-ccs-2015-summary.pdf>> [Accessed April 20, 2016].

5.2 本文中での引用

本文中における参考文献の引用は, 引用箇所において^{1),2), 3)-8)}のように右肩に片括弧付き上付き文字で文献番号を付ける.

6. 引用 (転載) 許諾請求手続

他の著作物から図表等を転載する場合, 引用 (転載) 許諾手続を完了していることを証明する下記の書類を添付する.

- (1) 引用図 (写真を含む) 表リスト
- (2) 引用原典のコピー (表紙, 奥付, 目次等を含み原典名, 著者, 著作権者, 表題, 引用頁, 出版年月等が明確になる資料で引用部分を赤で明示する)
- (3) 引用許諾文書の写し
- (4) 原典出版者名 (その連絡先) 及びそれらの原著者名の一覧表